

沿岸航海開始！～それぞれの夢に向かって～

薩摩青雲丸

指導教官

航路実習

二月十六日、枕崎港に入港し水揚げ、食糧・燃料を積み込み、二月十八日に枕崎港を出港し沿岸航海がスタートしました。今回の航路実習では、関門海峡航路、瀬戸内海の来島海峡航路・備讃瀬戸東・南航路、明石海峡航路、伊勢湾の伊良湖水道航路を航行しました。まずは九州を西回りに関門海峡航路を航行し、瀬戸内の航路を通り最初の寄港地である高知を目指します。また、関門海峡航路、瀬戸内海、伊勢湾の航路は普段航行する際の交通法規とは異なります。遠洋航海中に勉強した交通法規を下に各航路実習に挑みました。

航路実習では交通法規の遵守はもとより、船舶の往来、小型漁船、狭水道、強潮流、狭視界など様々な条件が重なります。その中で安全運航に努めることが航海士の職務の一つになります。特に、来島海峡航路は世界一の船舶交通の難所とも言われ船舶事故も多い場所でもありません。そのため、航路を航行する祭、船舶内は普段以上の緊張感に包まれます。生徒は航路の管制情報や各船舶が掲げる行先番号、船長の説明をメモに取るなど生きた教材を肌で感じ、充実した時間を過ごし知見を深めることができました。



来島海峡



明石海峡大橋

沿岸航海体験記(抜粋)

麟太郎▼いろいろな航路を朝や夜に通ることができて面白かった。
 運▼狭くて危ない航路など実際に通って良い経験を得ることができた。
 優仁▼航路の中にも漁船がいるなど怖かった。想像していたより大きい船が沢山いた。獅龍▼操業中とは違い周りに船や島などがたくさんあり緊張した。
 遥斗▼航路航行中の多くの情報を正確に処理し指示を出す船長はすごいと思った。史煌▼様々な航路を通過して通航方法や通報など難しいと思った。
 莉久斗▼沢山の航路や船舶のことを深く知ることができて楽しかった。
 瑠晴▼航路実習では沢山のブイや船舶、無線連絡などあり楽しかった。
 伊吹▼航路実習を経て専攻科生や船員さんを見てすごいと思ったと同時にちょっと不安になった。
 咲偉▼形象物や灯火などを見て他船の動静を判断して操船する乗組員さんや船長さんはすごいと思った。
 理人▼沢山の船が衝突を避けるための行動を取ったり、無線で意思疎通を取っているのに「仕事」を感じた。
 優悟▼航路を航行しながら学んでいくことで内容が入りやすかった。幅狭海域では瞬時の判断が必要だと感じた。
 愛輝▼思っていたより航路航行船が少なかった。見合い関係や地理を学べた。
 幸憲▼いろいろな航路を通ることができすごく勉強になった。
 陽太▼毎日揺れるな中で生活し、狭い船内での共同生活は大変だと感じた。
 電久▼見張りの大変さ、航路内での漁船の危険さ、その他いろいろな事が体験できてよかった。
 晴人▼授業で習ったことを実際に見ることができてとても貴重な経験だった。
 星空▼当直では周りに島などが見え楽しかった。出入港作業はとても勉強になった。

乗船実習を通して

専攻科海洋技術科 池田 倅征
 私が沿岸航海で一番印象に残っている場所は「名古屋港」です。港内は奥へ入り組んでおり入港してから岸壁まで一時間程度かかり港の大きさを身を持って体感しました。また、港内では常に出入港船があり、周囲の船舶の動静にはかなり気を使います。その中で船長と航海士は機器による情報だけに頼らず、目視で確認し様々な情報を得ていました。私はそこまで観察することができず、船長や航海士のごさを感じました。生きた教材で学んだことをこれからの実習に活かすとともに将来船長を目指し頑張っていきたいです。

専攻科海洋技術科 肥後 愛翔
 今回の航路実習では、来島海峡航路での操船を行いました。これまでに関門海峡や備讃瀬戸、明石海峡などの航路で操船をしてきましたが、来島海峡航路は初めてです。世界で唯一「順中逆西」の航法を柱とし、強潮流や屈曲部も多く航海の難所という点もあり今まで以上に緊張した操船となりました。今回は転流時と重なって潮流もそこまで早くなく、ミスなく航路実習を終えることができました。これまでの経験を活かし来航海の実習に挑み、最後の乗船実習を完璧な状態で終えられるよう頑張っていきたいと思っています。

専攻科機関技術科 上釜 翔
 これまでの乗船実習を通して、私は様々な作業に取り組みました。その結果、船に乗る前にはなかった知識や技術、物事のとらえ方を得ることができました。来航海で専攻科生として最後の乗船となるので、今まで学んできたことを後輩たちに引き継げるよう頑張りたいです。自分自身も更なるレベルアップを目指し、社会に出て通用するエンジニアになれるよう取り組んでいきます。

専攻科機関技術科 永田 美月
 三回目の乗船実習、毎日行う作業でも日々新たな発見があります。そのたびに、学び、覚え、作業を行うことが私はとても楽しく思っています。一つ一つの作業が大切で、その経験を少しでも多くの学びに繋がられるように努力を重ねています。

残りの内航、そして最後の乗船実習となる一次航を経て、私自身が大きく成長できるように頑張りたいと思います。これまでも乗船を行ったりお世話になってる船員さんや応援してくる家族への感謝の気持ちを忘れず、胸を張れるぐらいの自信を持って最後まで走り抜きたいと思っています。

リーダー実習

沿岸航海では島や岬など顕著な、物標の方位や距離をリーダーで観測し、海図へ船位を記入します。最初の難関は海図とリーダー映像の重ね合わせです。専攻科生に教わりながら海図とリーダー映像を何度も見合わせ確認しながら船位を決定しました。写真左上

航海日誌

航海当直中では見張りに加えて航海日誌を書きます。気象・海象や「出入港」に関する内容など、内容は様々ですが、当直中に従事した内容を記事にします。本船の航海日誌は英語筆記体で記入します。航海士の日誌を手本に専攻科生に指導を受けながら記入していきます。初めての筆記体にスペルが読めず悪戦苦闘しています。

